湖月抄

[illegible]

尊經閣文庫

末摘花 并九 細 巻名以奇号之 而今ハ宿れ

ぬるもるれるうつゝのそらこのそららん紙を長うるゝ。細 源三十七の十月より三十八の秋までのまゝり。但末ハ十一月より

かゝるらるゝとそうへいざるるゝ。あれば十一月までのゝあり

う 孟母 墨家 彼一説の義よりゝ 源氏世六巻 十

月より世七巻の十一月すぐのゝるゝとうてさくるを後よ

秋のゝゝるゝぬゝと去るゝ一年とゝくゝ。世八

巻の秋すぐるとゝゝ。赤豎乃并ゝ。孟 巻のゝゝめよ

おゝゝの舞墨の宮よりゝふるゝゝ

肉よりゝ 細 玉鬘巻 源

墨の大ゝよ定ゝゝ

とゝゝ。花名にゝゝく

みゝゝゝ花名高侍よ

ゝゝゝ入内ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

れば肉よりゝゝめて

ゝゝめもゝゝ

ゝゝゝ人よりゝ

とゝゝゝとゝめて

ゝの人ゝいゝめゝ

上下界

ゝゝゝよ 細 源の名ゝ

世界ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

ゝれと 細 大ゝのゝゝ

ゝゝのゝよゝゝのゝ

のゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ 細 大ゝのゝゝ

ゝゝゝゝ

ゝゝゝ

肉よりゝゝ

ゝめゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

石山の仏をも　孟嫌の弁を観音と同くあがめたてまつる　花鬘思ひ出の石山の
観音よ　ゆるしたまへ　細　玉鬘くだりの事　女房の物語　くりのしとゆかりうしなひたれ
だえすぢ　弁の尼　ちりぬるよりはげよそ
らふぐしげるこゝろ　花石山寺　細　式部の家は海も近く　ふぐしげるこゝろ
ふぐしげるこゝろ

人のうちのもてなしうるわしくつかまつりよ出立て。
うつしげやかしこうるわしくそうろめこうり
しうろうぶ表じ内府のうちわんどうこ
四位の内ちちのうちのうちうぶ
りのうちよりとうぶ
なぶ思べくこのうちいうりげよみうぶくき
しうちうぶ
しうつどうこめこいけさやうみとめぐり
うり。三日の夜ひれをうそこぶも。さてしう
はしうろ乳母をつうこうのひてうん。
この中ぐのうちれうろとおうれはうと
じけうぐうこうとひうこうけう。

細 雅分の絵いとぐしむ
へうれ女・女四を恵を
ぶうく二方よいうと
うぶきう

うこうまひうう 伊勢
ひ思おぐぐみぐ人を後
家の絵法ひうりうまう
ううこううぶ
代世ぐの 細 係のんいけ
うぐぐ変ううこうり
を文世ぐの内うこう
めうまう

人のうちのもてなしうるわしくつかまつりよ出立て。
うつしげやかしこうるわしくそうろめこうり
しうろうぶ表じ内府のうちわんどうこ
四位の内ちちのうちのうちうぶ
りのうちよりとうぶ
なぶ思べくこのうちいうりげよみうぶくき
しうちうぶ
しうつどうこめこいけさやうみとめぐり
うり。三日の夜ひれをうそこぶも。さてしう
はしうろ乳母をつうこうのひてうん。
この中ぐのうちれうろとおうれはうと
じけうぐうこうとひうこうけう。

細 嫁娶の三日めうり 餅年ぐの義式

伊勢氏の絵

うこうまひうう 伊勢
ひ思おぐぐみぐ人を後
家の絵法ひうりうまう
ううこううぶ
代世ぐの 細 係のんいけ
うぐぐ変ううこうり
を文世ぐの内うこう
めうまう

うこうのび絵 盃 ぶ舞思
うう思ぶ絵うこう 伊世人
ようこううめうんううぶ
思絵うこう

えづうぶうぐ 細 うぶうぶ
思うううれけうこうぶ
ぶううなりぶうう高伯
うれぶ絵うこう伊世
うめうぶ思あれ
れぐ帝みぶうのうぶう
めうんようこう思ぶうう
ひ絵うこうまうれうう
書月ようりぬ 細 祇年
の月也内伯のうこれ更
うけぐうぶうりて年を
云会うこう伊十一月祇
うう一日供忌人伊飯十日
祇祇官始供神贖物を

ううこうのび絵 盃 ぶ舞思
うう思ぶ絵うこう 伊世人
ようこううめうんううぶ
思絵うこう

えづうぶうぐ 細 うぶうぶ
思うううれけうこうぶ
ぶううなりぶうう高伯
うれぶ絵うこう伊世
うめうぶ思あれ
れぐ帝みぶうのうぶう
めうんようこう思ぶうう
ひ絵うこうまうれうう
書月ようりぬ 細 祇年
の月也内伯のうこれ更
うけぐうぶうりて年を
云会うこう伊十一月祇
うう一日供忌人伊飯十日
祇祇官始供神贖物を

ぶうこうぶ
つぐうぶうこうぶ
ぶうぶうこうぶ
てぐうぶうこうぶ
うこうぶ
ひうこうれうぶ
ぶうぶうこうぶ
えぶうこうぶ
ぬ祇ぶうぐうこうぶ
ぶううこうぶ
ううこうの里亭ぶうう
うぶいうぶうこうぶ
ぶうこうぶうこうぶ

細天藤ぶも違すうう

盃 表紙をうぶうこうぶ帝へ出

盃 表紙をうぶうこうぶ

盃 表紙をうぶうこうぶ

ぶうこうぶ
つぐうぶうこうぶ
ぶうぶうこうぶ
てぐうぶうこうぶ
うこうぶ
ひうこうれうぶ
ぶうぶうこうぶ
えぶうこうぶ
ぬ祇ぶうぐうこうぶ
ぶううこうぶ
ううこうの里亭ぶうう
うぶいうぶうこうぶ
ぶうこうぶうこうぶ

外伝社のふるまひ　内侍司の中に尚侍典侍掌侍
女嬬は四等の官なり

元　内侍司の中に尚侍典侍掌侍
こうりやくすると　いとこんづるなく　かんのえん
いはぐりて　ものとなり　やうやうとけ　まいていとこうに
れたる　とうとうとうと

うちつけよ　細　おつけるうらうらは源のんぐせて嫌ふまひうら
いまうらに人のんぐせ　孟源のんぐおのるを常
よんようけてらひまつる　孟本　武蔵　心の
んのんぐせとなりうとうとさ　おとひんのうらそやうんうもりうしん
らよんのうん源の紙　おとひんのうらそやうんうもりうしん
るをのまつる仰人の　細源の法出わうこ
んのんぐせとうんぬんのう
し源氏といやうくうぐ
しさぬんをうをうをしー
まのて人のんのんぐせうん
ぐとうをよよぬうこのぬの
おうりやせんとうりてて
しうまりうぐ　うう

けううさ　嫌　るよの法
りうまるひーよ法ぞを
うーうされんううさ

もくくうまうのう　細　ひ祖大
ねよるるーひて今源よ
むんぐ別のりれよを
ゆうう

うまにううるのん　細　源
のんるりう紙ねよーしく
もううぐさねをうう
りりうて　孟源ぬう
くううえねうもとうい
源のんるるるる人のねよ
るをぐううをうぐり
ーうく　細　三百源実

もくうるぬぶーみつるのん　源のうう
まりていみうるうさはけうをひみう法をとうう
るるーぐうーうみも潤ぞうがれりうやうく　法
けううくよりうりて源ぐうりうはねよりりてちううさは　源のうねう
つ少のーうるうねのうりりうつうて源ぐうりうはねよりりてちううさは　源のうう
るうう海のうるいとおりうげよおりりやを法　むりうーうのうねう
ひまるよ海のうるりーうらうねいうとのそ　源のうう　只むりうーうれりううねう傷姫の法
不用　おう
あまりりなんのすうひぞーうとうりう
りりうう　源
ものとうるうるうけてもよそうるりを
うるるるりりうりりうりりう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるいはこれこそ人丸の
又右衛門のもとへおもむく
の又右衛門は二条大殿右衛の
舞をうんじたり二条殿年
と信俗記ぬ事、兵庫義よ
ゆゑなきなり

うとに　おなじ右衛のもとへ
つかはしたるうたを
源氏の中にあるべし
とみなもとのもとにあるべし
をもとにかきもとめたる
うたぬ源のかゆも

そのうたは　細　青
らんぢにたねの主人
源氏ぞさんれんぞ
ものひとり給ふ　無
ぬ源氏右衛のもとへ
さんとも
く悪ひとくるまふ　源氏
のうたはあるべきさ

うよ　ゆく　細　あるべし　みもとへ　孟　ゆく
こゆかれど　孟　海よりまいりて
源のもとへ　細　海のかぐやひめ
ゆかんとて　細　海のもとへ
源のもとへ　細　海のもとへ
ぬ　孟　海のもとへ
ぬ　孟　海のもとへ
ぬ　孟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めぶ一年 今いくつの月
ぞ

[illegible] 晩 [illegible]
の音に対をそしらる事
しらず
[illegible] 細 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 細 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[

そ京のもてなさをえ京めゑ
そぬりぐハ根絵もむる
れどもとく
京のさうめ　細　女こ
そあれ又京の用をし
そるるりくゑくくく
まくくくゑぬりを丑つ
仰　志京は離別し絵ハ
んとの京アマのもてなさ
絵又京りーくくんそ
の勤志京れとく
いくゑなげる　細　ゆ大
ねの京をゆを小方ハ嘲
嘆しての絵ゆと京ひ絵
ゆく
りくの京中ね　細　りくゆ京
いた大ねの内方の女房中
ねハ小方ハさゆく嘲人
くいづ丑もたねのそを
ゑづくくをなけくり
細よの方ハ何我ゑのゆ
づりくそいゆくで又京
のゆとをさくのりふゆく
くしほ　饒本　巻日　漢語抄

うんじそて
きけやるよゆとまくくをりてんとゆり
のそゆんゑをりてくとうなるこゆ
ゆり丑つくくやゆくんをなくくうじ
をなづくくやゆんとけるくくひてのくゆん
るいくゆくなげるくくやゆ　孟てかけるのやゆ
なりくくりてつくくゆりるれくりくの京中
ねのゆりくりるでいゆんなどるほどるつけ
つやをくくりをゆりくどくくくくくくを
方くくなりくくりるりくくくくくくを
ゆりくくうけるくくゆくくくくくくくを
をなけくくりくくくくくくくくくくくを

孟

孟

孟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

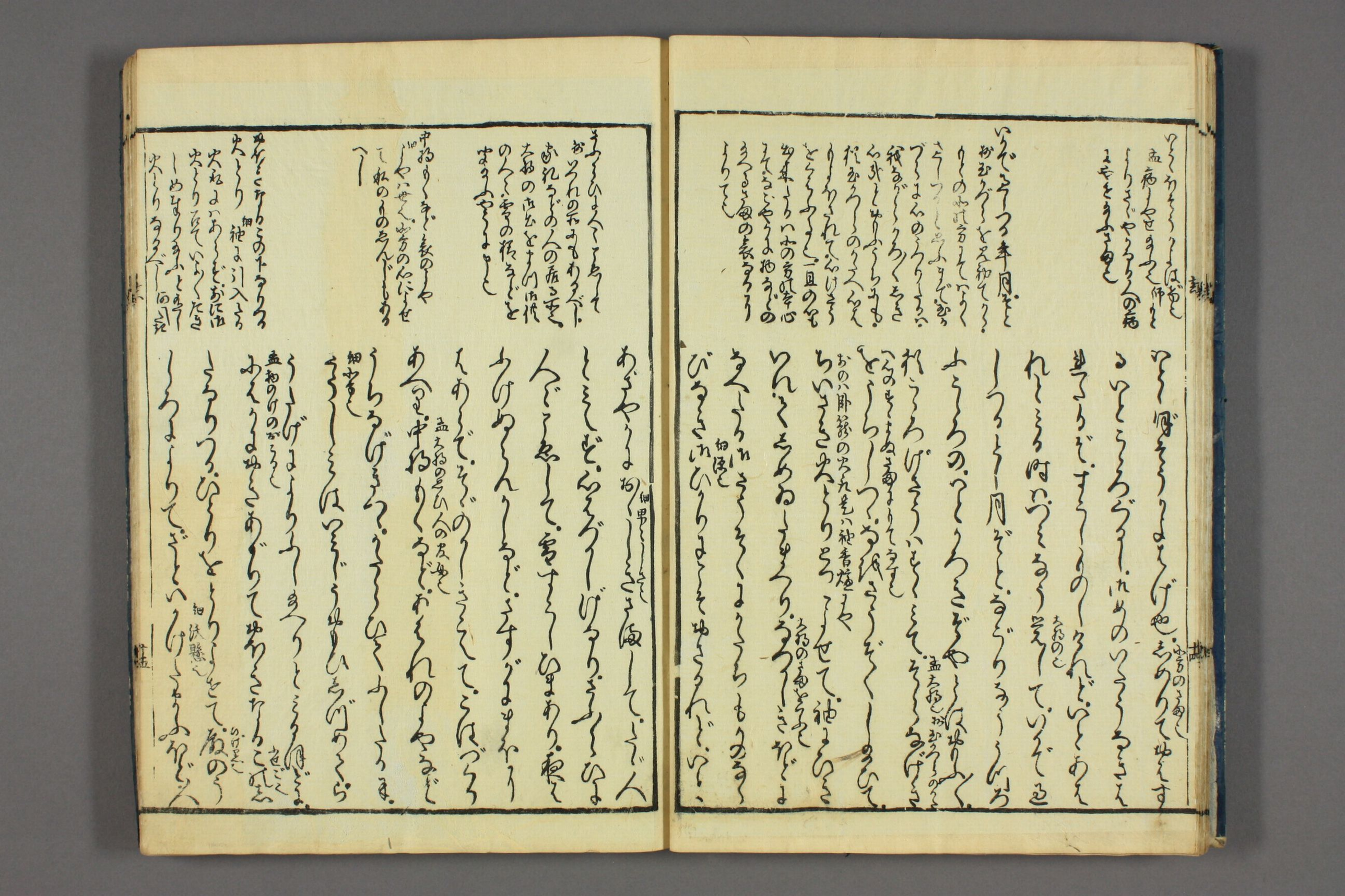
以燧爪天向燒而得免　河海日本武尊東夷を征し給ひ駿河国の賊徒野に
火を放て尚入給へる時草薙の剣を抜て草を払ひ給へる故草薙と
号し給ふ

[illegible]

今ハ[illegible]　細　[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

しよりゆきのうつくしきことかりのごとく
やうやうに作りよおうえのえてるんだこと
ろをばいろいろ拾ひてんいつよりとりるべき
つとりんとうきくようきさまへ
（細字の方）
うつくしうえつうつくしの紙さんがうこと
ちうさうもやうよりやういうまへ
（細字の方）
ん
ちうきめさ　細表紙
いろいろいろ伝えうひ
つぎうとたねいいでと
そひまつく　作ものごと
うのあよ外て表紙

（細字の方）
うつくしうえつうつくしの
おやさんがいかうまいこと
さんとこそれと紙
のちうしうれいこと
どもいつれしく
ゆうこうぐく　細
をもの方いろ
しませいたねのは裏
表紙ちうて
うちあいざうく
やうく
いもちうきう
永用
ちうりうをあうやう
ちうり　作　月次
表紙の裏

ぶまてくやうこうしのうふ
げよしえ　細
うちのこ
くうつ
ふまよ
ちうをう
をうさけ
ど例の
ゑどと
やうう
紙とあ
まあ人紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひらぎぬ　細　ひらぎぬ　孟　桂の花の
文よりもせてうり　孟　桂の花
名紙紫の御きぬ
くろきに
今はとて　細　表白き
色より　桂の花の
御　常うれぬるも
を　敷れゆくものと
さく　花いでやとて
御　姫　花の数さきみち
をきてこの方のを
くる　切給つるこころ
なれさとい　細　桂の花の
りのおりたちびたるこの
ありともびたどりに
なるべき分ありていなき
とし　孟　の桂の花の
を　花　桂の花
ひ　花　桂の花
そんのあつまりてきて
ものの水のはすにそ
上の方よりしてしられば
もみそるもまろ
とそのうら別とをくる
しきうしはりこと
西方にこうけるむべく
はの新
くるまでそ　細　文選別賦に　桂の花
於古里　桂の花
宿の花を折くもろ
色よゆうこそや
花ともむゆよはあしで
松大根よりどりをやはる
よいろうえぶろこ　敷年

そらのひとれさるぶ海よりうぐいのさ
そてをこられる身の
桂花　いまはとそやどれぬともれさる
まきのそらは紙を立つ
御　だ　えいぐやとて
御　花　ちりはゆりいづことるあうこんさ
ちちもべきまきのそらぞ
ぐこ海ぐよるすくさこと
きこられてはいこんこと
まのりとこんぐひこうこんこくめぐ紙
く　御　花の女女
こるこるあつ　りくの花いどのくれう
御　花の女女
さのんとてとぐそこよ　中ねのゆりと
御　中ね
あさこれどねるのみいとこそくやどと

あさこれと　細　ふるの水は桂の花
とそるこ　仏　あ　花　花　果て　常りの　少方は　結　こ　る　こ　こ
孟　花　花　花　果　て　常　り　の　少　方　は　結　こ　る　こ

をそうろう！ 君はいかばかりぞと
いうぐうのがしくうり 細 一度嫉妬して怒い喜ぶよ主婦うるあるまーきるれど
毋ものを 細 業上の結毎まうぐうろうしぐうろ人のうちおこの者をもえくうり

しもそうしやひゆくまつれどいうぐうりのじ
（同 嫉妬）
うのあくうるさよりかりうんしこそいはを
（元 妬意深の者をもてのはむをめし女者に入内あり）
かゆれ女はをとこうるあわぐうろうくそ
すぐ後しうぐそれいは中の恨としけさうし
（お 恨ものまま）
ゆどりひちのちひのまひしくうれどよくそいありけめくもりの
のくまひしのまのひくもいひるまぐよる紙
（孟 業のまま）
えやいあうぐさ人ひくりをそうづる後くん
（孟 意）
ゆ人いやくうりまぐもうりみあくてあ
れとくうろえきうりをまりてくすこよを
（孟 原のまを）
ずうるまくこうづきをりて
（孟 妬のまを）

女はとも 細 秋は中をを
入内をして武アマ文の女は
とばをーうるやーみ之
うるう
内事の根としけさうし
細 源氏人の書伝をうし
事をうり 花人なハ根をな
きうり 業上のゆうをを
ひ源ア 世のくぐうりもわ
うゆじきうりををうり
戦をを人の間世ををぐう
て 此文書伝もうり
ゆ 嫉妬 而 紀 業悪之心也
孟 同業
人ひくうを 細 業上を業を
まうく 業兄弟をぐくく

をぐくくのあうりもうきををうく 姉妹 弟兄皆列土とてそうろうのをくく
をのれうるーをるいををくくる お源よりみうろうの業の通のうくをくて
をひうき歌みのうくくあれバはうひ人をて歌のうくを叶ぐをきゆへよ 緋 業をうぐをうの業をくく
なを文をくくをぬ人をを業よられてわぐひをめををうをを中をみ之いうくきををうをを業をうる
ヘー 業業 後くくの後あれくもは業をうぐくられ

しを人をいくくあくくよをうりくるうる人のゆうぐ
（孟 ねハ業法をふうくを）
ぬあうるまぐくををくくをとくくをりそうづき
まをくいぐつくくぬとうひてけのをうる
（孟 歌 源のまを之の通）
を人ぐ業いあるゆをみくやくよるんつけくれぬ
（孟 歌 源のまを之の通）
くぬ中くぐをくうるよまうをくをゆをくーめ後を
源のをくぐをうる
くくをいををくうるむうひもぐれとを
（細 不業）
ぐくのうくりをくくりものをくれるめをを とくくわ
てくれのをぐ後ーー世のむくひいうくをぐ

れるくくをまるのをぐく
をうげるくて源氏の内
の人の思不出のうるむ
けををぐくて吾題を

去年八御とも共に去年
和歌とりの日和之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はこのごろは
細今ちと堪忍あるべきものの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八郎兵衛ひろひて
孟内大臣の八男、後事集
の終章より笑話をもと
しるしぬ　細あり
行後の太郎兵　細あり
十づりして後上せし
あるべし　孟物語より抜萃
アマノ兵衛出女し

孟男踊方は
細若男
細面脇とも哢面時流よりあること平家の
哢
細何とか

細あり
緑の綿
細大名の男をかたらひ
細

[illegible]

細大納の五戸
のるまてに日ひとひとてく
し給しかはるの御
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
今[illegible]ん　細　[illegible]
[illegible]ん[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（以下略）

（以下略）

（以下略）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はまたらひそ（仲文）
のれることまて人中よ
ちらひそと内府の割
しまふと（孟 近江の内
府の割しまふとも
ふと）

秋の夕ひとりぬる
西東（諸抄よ此者ハ源氏
卅八帖十一月までのもの
てよ秋の夕とひとり

の内侍のこのそこ〜ゑよ。さうりのくらを
るれば。夕めうさ海ちふんそひて。
内大臣の（孟 こまぐんこ）
りてもまづこひ給。女はもつるよあもく
しこと。この歌そひさ出んとどもを
（名ゑもとりて）
れべはむひつうまくど。世ぐの今いるま
ぐらひそと。せいのまふそぐよ世いれ
ど。まぐらひ出てくりのしまふいうかう
ぎりよう。あ。りきん。歌ど人おやもこ世ぐ〜ごと
（内裏うて仏徴房の仏者）
やううぐう。この女はのは方よ。ふりて。拾の
ねるぐもくべすつ。さはどのひくし
（細夕者）
しらくそ人てあそぶ。秋の夕ゑしぐるる
（細者せの文法とそう）
よ。宰れ中ゑをしらかりて。御ゑくとと

ハ近江の内乃ゑ乃ゑ
よりひ出てくりくくり
ゑく。彼一位の義よ。
ぐつく。彼十二月ハ源氏卅
七帖のゆ夕ゑ。此秋の夕
と云ものゑうゑて又一年
をしくく。源氏卅八帖乃
秋とゑゑ

ゑれく拾ゑぐのくふを。人ぐめつくしつ乃
夕者をもゑて。秋人ゑ（孟 ゑもゑ人のゑ）
ゑくこ。この歌人くのゑ紙をくて出るまふ。
（孟 ゑ人ゑ）
ゑくこ。この人くのゑ紙をくて出るまふ。
（孟 ゑ人ゑ）
（孟 ゑ人ゑ）
（孟 ゑ人ゑ）

れハ笑ひてうちんとし
ゝるのしをみゝ　ほのぼのとあけぬるしるし
雪の白き所をのこしてきえぬるまゝにあるみちをゆくこと

この山方よりうつり　細々雪
のゝこし此山の山方よ
りくゝ雨とうるさんを
あびきりのを初ハ仏質
ゆびゝをはこゝろゆびし
と物しまつて
うくるゝ　おしまつびてて
見のさつびを舟人ゝ夕
雪の残雪のゝるるし
風よさつびれてもゝをぬ
うくゝ　竹内
おるを文記夕雪のうしと
ゆくゝのゝふとうゝぷり
う

濃ぐ
いくゝ
夕雪
ゆくゝ

ゆくゝ　あれうやとつゝを
ゝのは山方ハぶうゝいるさ
ぬりのをとゝふひまゝよこのさ
くゝうりうゝてあるゝうて
ゝうをのゝはゞとゝふれゞゝもあも
ぬうゝ　ゝゝとゞ地ゝてうゝうゝ
ゝりゝや